

写真4：フィレテオドラの作業<sup>4</sup>



女性がフィレテオに従事する理由は漁による夫の収入が不安定であることによる。季節によってどっちが儲かるかは違う。女性が世帯主の場合や、夫が日銭をアルコールに使ってしまって妻に渡さない場合など、家計をフィレテオで支えている家庭もあるという。

#### <地引網漁の問題>

漁業組合連合会長 Aquilio Chac Auila 氏は、地引網漁は浅瀬の魚を総ざらいにし、海草を寸断する上、昼夜に渡って行われるので過剰漁業につながり、他の手法による漁業に悪影響を与えていていること、さらに、商業価値の全くない小魚・稚魚は棄てられ、資源の無駄となっていることを問題視している。地引網の漁業資源に関する負の影響は 10 数年前から感じられているという。SAGARPA によれば、漁業資源を保護するために地引網の網の大きさには規格を設定しているが、実際にはほとんど守られず、蚊帳が網として使われているケースが多いという。違反を摘発するのは PROFEPA の役割である。しかし、PROFEPA の事務所はセレストンではなく、事実上の野放しになっている。以前、PROFEPA が違反した網を押収しようとしたところ、抗議する地引網漁従事者が PROFEPA の車両を横転させて放火した事件があり、以来、地引網漁の違反摘発には消極的だともいう。

また、セレストンの地引網漁は、地引網漁が禁止されているカンペチエ側のリベニヤでも行われ、カンペチエ（特にイスラ・アレナ）との紛争の一因となっている。

CINVESTAV の人類学者 Julia Fraga 氏によれば、ユカタン州ではこれまでに地引網漁廃止の動きは何度かあったが、そのたびにセレストンの地引網漁従事者、及びフィレテオドラの反対により頓挫したのだそうである。フィレテオドラは通常は組

織化されていないが、関連業者（カシケである冷凍業者）がトラックを用意してメリダまで彼女たちを運び、抗議行動を助けたのだという。今回の調査でインタビューしたフィレテオドラ（35歳）によれば、女性たちも地引網漁で小さな魚まで獲ると漁業資源が枯渇するし、カンペチエとの問題もあることは認識している。しかし、毎日の生活、特に男性の漁業収入の低い時期の生活を支えているのは切り身処理であり、地引網漁の禁止はセレストンの多くの家庭の生活の糧を奪うので全面禁止には反対である。解決策としては、タコ漁の解禁期間である8~12月は地引網を禁漁とし、タコ漁の禁漁期間に地引網を解禁にすればいいのではとの意見であった。もちろん、これは彼女の夫がタコ漁師だからでた意見である。

SAGARPAは、地引網漁の影響に関する科学的根拠を示すためにCINVESTAVに漁業資源調査を依頼した。しかし、地引網漁の負のインパクトは観察できないとの結論がでたので、地引網の漁業権を新たに発行し始めたとのことである。

#### c) リア漁業

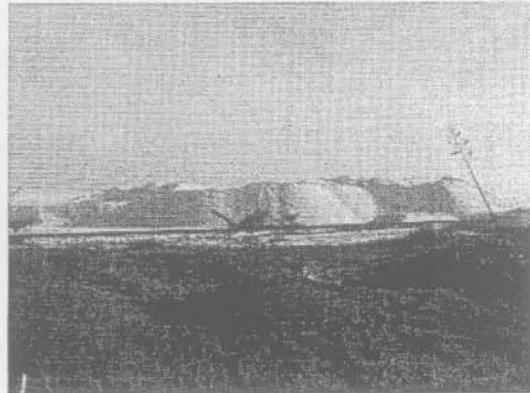
リアの漁業は、主として内陸部からの移住者が従事している。リベレニヤ漁業の繁閑期（北風の時期）にはリベレニヤの漁師もリアで漁をするので漁業人口が増加する。合計約500家族がリア漁業に携わっているという。漁獲物は自家消費、及びレストランやホテル等の地元消費に使われる。組合は3つ存在し、255人が正組合員である。商業的に重要な漁獲物はカニ、及びエビである。エビは一日に約1キロ捕獲でき、1キロ120ペソで売れる。経費は20ペソほどなので一晩で100ペソほどの収入になる。セレストンのリアでは1997年にエビ漁が無期限禁漁になった。エビ漁は上記のように様々なかたちでセレストン住民の家計を支えていたため、禁漁が発表された当時は社会問題になったという。現在でも、エビの密漁は半ば公然と行われているようで、レストランではリアのエビを使った料理が提供されているし、現地視察中にもリアでのエビ漁を2度みかけた。保護区管理官もエビ漁が住民の生活を支えていることを承知しているため、見て見ぬふりをするのだという。また、カンペチエ州側のリアでエビ漁をする住民もあり、カンペチエのPROFEPAが巡回船を出して警戒しているという。

## B. 伝統的製塩業

既述のように、伝統的製塩業は長くセレストンの中心産業であった。しかし、1942年にリア・ラガルトス保護区内にあるラス・コロラダスにおいて近代的製塩工場が操業を始めてからは、セレストンの塩の価格が下がって生産量も落ち、主産業の地位は漁業に取って代わられた。しかし、現在でも、約500人が製塩業に従事しており、地域の重要産業であることに変わりはない。製塩作業は乾季の4~6月が作業のピークだが、これは漁業の比較的忙しくない時期（タコ漁の禁漁時期）にあたり、多くの製塩業者は漁業と兼業である。

セレストンの塩の年間生産量は 18,000~20,000 トンだと推定され、チアパス、ペラクルース、カンクン、オアハカ、タバスコ等から仲介人が買い付けにきている。

写真 5：セレストンの伝統的塩田（雨季） 写真 6：ラス・コロラダスの大規模塩田



### 1) 製塩方法

セレストンの湿原で行われている伝統的製塩は、土に含まれるミネラルが雨と化合してできた塩を乾季の 4~6 月（漁業の忙しくない時期にあたる）に手作業で採取するものである（海水を乾燥させる製塩ではない）。セレストンの製塩組合連合会長の Jose Luna Rejon 氏によれば、伝統的製塩は地域経済と環境保全の両方に有益な産業である<sup>5</sup>。雨季には塩化ナトリウム濃度が 30 度だが乾季には 280 度にもなるという。塩の採取時期には人手が足りないのでチュンチュクミル、キンチル等の内陸の集落から出来高払いでの労働者を雇用する。保護区管理事務所によれば、外部から労働者を雇うのは、塩採取はハードな単純労働であり、セレストン住民にはふさわしくないと考えられているからだともいう。

Jose Luna Rejon 氏によれば、セレストンの塩田一ヘクタールあたりの年間生産量は約 100 トンである。採取される塩には、採取時期によって、①乾季の最初に泡状になって現れる、塩化ナトリウム濃度が約 80% の泡状塩（sal de espuma）、②乾季の最中に採取できる、塩化ナトリウム濃度 100% の粒状塩（sal de grano）、及び③乾季の終わり頃に冠水して湿った湿润塩（sal ahogada）という三種類のタイプがある。98 年には泡状

<sup>5</sup> 大規模塩田中止問題：サンイグナシオ湾付近の自然保護区でメキシコ政府と三菱商事が共同で大規模塩田を開発しようとしたが、コクジラの繁殖に影響を与えるという理由で環境 NGO のグリーンピースが中心になって反対運動を展開したため、大統領の決定で中止になった（2000 年 3 月）。米国では三菱製品の不買運動まで起こったそうである。製塩組合連合会長によれば、塩田開発が地域経済と環境保全に有益であることを知らないひとが踊らされて反対したのだそうである。

塩が 200 ペソ/トン、粒状塩が 150 ペソ/トン、湿潤塩が 140 ペソ/トンで取引された。塩田労働者には 50 キロ袋一個あたり 5 ペソを支払う。労働者は一人当たり一日平均 20 袋分の塩を採取するそうである。

## 2) 製塩組合

製塩は伝統的に塩田の慣習的権利者がばらばらに行ってきたが、1984 年に最初の製塩組合組織（SSS）として Felipe Carrillo が結成された。創設者の Enrique Poot Chuc 氏によれば、その動機は活用されていない塩田を開発することで、コミュニティの人々は収入向上を目的にために組合に参加した。SSS として登録すると、①融資プログラムへのアクセスが容易になる、②慣習的利用権が。その後、次々と組合ができたが、個人ベースで行っているサリネロもいる。Enrique Poot Chuc 氏によれば、組合員から信頼される組織として機能しているのは Felipe Carrillo だけである。他組合では役員による組合の私物化が目立って組合員が役員会に不信感をもち、中間業者とも個々が交渉をしているので、価格を低くおさえられているという。Felipe Carrillo が組合として成功している理由は、組合長自身の分析によれば、結成当初から総会を実施し、役員が報告することを慣習としていたため、組合員と役員の間にコミュニケーションがあり、信頼が醸成されたことにある（今でも毎月 1 回、定例会が開かれている）。また、1992 年には製塩組合の連合組織である Tunich Tab が設立された。連合傘下の製塩組合は 10 団体存在する（図表 7）。

図表 7：セレストンの製塩組合

団体名	設立年	主な塩田の名前	年間生産量(推定)	正組合員数	臨時組合員数
1.Felipe Carrillo	1984	3 Torres Pilares	5~6,000	26	60
2. Chechenes	1988	Sansones	2,000	23	35
3.Tabche	1988	Pepitos y Perdidos	1,000	18	30
4. Hovonche	1988	Canxnuques	2,000	15	25
5. Polzimin	1988	Caballos	300	15	15
6.Salineros Unidos	1988	San Pablo y Sacrafamilia	1,000	15	30
7.Plaza de Armas	1988	Plaza de Armas	1~2,000	16	15
8.Nohox Cholol	1988	San gregorio	500	17	10
9.Chochul	1988	Ajaguez	200	15	-
10. Chikin Ik	1990	Luceros hermanas	5~6,000	42	60
合計			18~21,000	202	280

### 3) 土地利用のコンセッション

製塩業者組合連合会長の Jose Luna Rejon 氏によれば、セレストン保護区内に塩田は約 90 水帯、約 300 区分存在する。一区分の規模は 1~8 ヘクタールである。これらの水帯は連邦所有地であり、塩田として土地を利用するには法的には政府のコンセッションが必要である。当局は、塩田の慣習的利用者にコンセッションを取得させると約束しているが、コンセッションを申請しないサリネロが多いとのことである。理由は様々だが、①手続きに時間がかかる、②メリダまで出向かなくてはならないので、バス代、1 日の所得がふいになる（製塩のオフ・シーズンには漁業に従事するほうを好む）、③コンセッションを取得すれば、それに伴う規則を守らなくてはいけない（税金支払いを含めて）などである。慣習的利用が認められているのであえてコンセッションを取得する動機がないようである。コンセッション保有のメリットとしては、UNDP など国際機関からの支援が得られることが挙げられた。

ところで、この土地利用のコンセッションをどの政府機関から取得するかについて現地では混乱があるようである。沿岸の連邦所有地なので ZOFEMAT からコンセッションを取得したサリネロもあり、水帯なので CNA から取得したサリネロもいる<sup>6</sup>。ZOFEMATへの税金は塩田面積が 12.8 ヘクタールにつき約 240 ペソ（年）だそうだが、CNA への税金は一平方あたり 1.5 ペソ支払う…と両者にはかなり開きがある。保護区管理事務所所長によれば、ZOFEMAT の管轄は海岸から 20 メートル以内の土地であり、CNA からコンセッションを得るのが正しいのだという。ちなみにカンペチェ州では CNA に払っているそうである。

### 4) 製塩業の抱える問題

Jose Luna Rejon 氏によれば、セレストンの伝統的製塩業の抱える最大の問題は製品を商業化する適当な手段をもっていないことである。一部のサリネロはセレストンで生産される塩は 100% の天然塩なので、それをセール・ポイントにすれば、国内外のネイチャー・ショップ等が買ってくれるのではないかと考えている。しかし、適切な市場を知らず、またトラックを保有していないので、たとえ市場があっても、仲介業者を経ねばならず、直接消費者に販売することができない。コンセッションを保有していないサリネロが多く、彼らは政府・国際機関の支援を受けることができないのも商

<sup>6</sup> ちなみに ZOFEMAT におけるコンセッションは、①土地利用証明書取得（郡庁）、②地形図取得（SAGARPA の Dirección de Infraestructura インフラ課）、③ZOFEMAT に書類提出、④申請書に記入（大蔵に 1150 ペソ 支払う）、計画書（生産性、収入、活動）も提出、⑤メキシコ本庁で審査（コピーは連邦、州政府の関連機関、CNA などに送られる）、⑥60~90 日で登記書（20 年間有効）が届く。

業化への障害となっている。ゴミ・し尿で塩田の半数くらいが汚染を受けていることも問題である。

### C. 観光業

セレストンの観光業には、大きくわけて観光サービス提供、レストラン、及びホテルの3分野がある。1999年 の保護区の調査によると、観光関連分野の経済活動人口は、合計 198人である。

図表8：観光関連分野の経済活動人口

職種	恒常的従事者(人)	臨時従事者(人)	合計(人)
観光サービス	85	1	86
レストラン	59	18	77
ホテル	35	—	35
合計(人)	179	19	198

出所：リア・セレストン保護区事務所（1999年）

#### 1) 観光ボート業

セレストンの観光サービス活動のメインはリアをボートで廻り、フラミンゴ、鳥類、マングローブ、ワニなどの観察を行う観光ボート業である。

観光ボート業は、1970年代頃、セレストンを訪れた観光客のリクエストに応えるかたちで非公式に始まった。1988年以降、ボート業者（ランチエロ）は、融資プログラムへのアクセスを容易にするため、次々と組合（SSS）を組織していき、96年までには現在の7組合が結成された。うち4つがリアの船着き場からボートを出し、残りの3つがビーチからボートを出す観光ボートの組合である。フラミンゴの食餌場所は、リアの北側に多く、一時間観光の場合、リア発ルートの方がフラミンゴ食餌場所により短時間でたどりつけるので観光客の利用が多い。先発の観光ボート組合がこのリア発ルートを取り、後発の3組合がビーチ発のルートをとることになったという。

リアには SEDEINCO の建設した観光センターがあり、チケットの販売場のほか、セレストン生物圏保護区説明コーナー、おみやげ屋（貝殻等を利用した手芸品、Tシャツ、帽子など）、飲料品等の雑貨屋、トイレ、駐車場などが整備されている。保護区の説明コーナーは入場無料で、保護区の立体地図、保護区内の動植物等の写真パネルなどが展示されている。ビーチにも観光センターは建設されており、現在、料金等の交渉が組合とのあいだで進んでいるという。

図表9：セレストンの観光ボートの主なみどころ

ルート	主なみどころ（一時間観光の場合）
-----	------------------

リア発	<ul style="list-style-type: none"> <li>— フラミンゴの食餌場</li> <li>— 鳥の島：軍艦鳥などの繁殖場</li> <li>— マングローブ回廊：四種類のマングローブ、カブトガニ、かわせみなどの観察</li> <li>— バルディオセラ (Baldiosera) の泉（マングローブ林の下の地下水脈が地表に現れた淡水の湧き水）：ペテン(peten)<sup>7</sup>の生態系観察、泉の一部で沐浴可能</li> <li>— 「水の目 (Ojo de Agua)」海底からの湧き水ポイント</li> </ul>
ビーチ発	<ul style="list-style-type: none"> <li>— プンタ・ニヌム (Punta Ninum)：沿岸砂丘とマングローブ林との境目（メキシコ湾生態系とセレストン水系の生態系の境目）、ペリカン多数</li> <li>— フラミンゴの食餌場</li> <li>— 化石の森：枯死した樹木の密生地（ペテンの水源がハリケーンの影響でふさがれて樹木が枯死）。</li> <li>— ジニトゥン(Dzinitun)のラグーン：水鳥多数。渡り鳥の休息地。</li> </ul>

写真7：リア船着き場の観光ボート

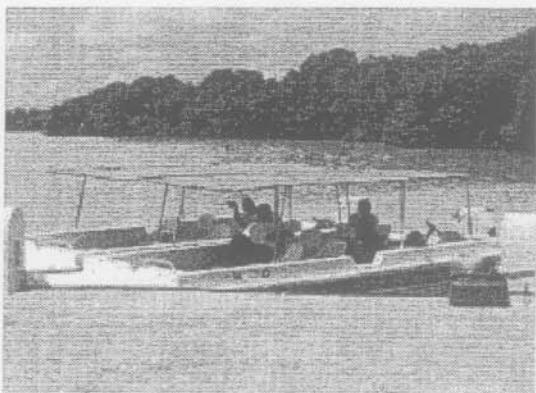


写真8：ビーチの観光ボート



1996年には、全組合から成る観光ボート業者連合 “Federacion Turistica de Lancheros Unidos de Celeston” が組織された。会長の Felipe Chi Santanan 氏によれば、その目的は、組織力の強化（対政府との交渉など）、組合間の利害の調整、共通ルールの設定などである。たとえば、以前は組合間で客引きをめぐるトラブル等があったが、連合結成以降は組合間で順番に観光客を回している。また、それまでばらばらだった観光ボートのルートも連合で設定し、管理事務所の承諾を得た。観光サービス供給者免許を発行するは CONANP だからである。ちなみにボート免許は港湾局から得ている。観光ガイドの国家免許は SEDENCO が発行するが、観光ガイド試験は難しく、ボート業者でガイドの資格を保有している者はいない。NGO の Pronatura の自然ツーリズムの研修を受講したランチエロもいるが、国家資格を保有しないため、ガイドつき観光ボート

<sup>7</sup> マングローブ林の地下水脈が地表でると、海水の生態系の中に淡水の水源ができる、塩分への抵抗性のない樹木が育つことができる。これらの樹木が水源の周りに背の高い植生を構成して島のようになる。これをペテンと呼ぶ（詳細は自然環境団員報告書参照）。

だという宣伝をすることはできないそうである。ガイド料金を徴収することもできないが、ガイドが喜ばれて観光客からチップをはずまれることはあるそうだ。

図表 10：観光ボート業者組合

SSS	ルート	組合員	99.7 に活動していた組合員
1.Paraiso	リア	15	12
2.Sta Ctuz	リア	17	13
3.Sta Cruz1	リア	18	11
4.Ninum	リア	23	14
小計		73	50
1.Chuncoco	ビーチ	15	10
2.Dzidzilam	ビーチ	16	10
3.Opal	ビーチ	24	10
小計		55	30
合計		128	80

出所：リア・セレストン保護区事務所（1999 年）

観光ボート業の繁忙期は 7・8 月（夏休み）、3・4 月、12 月（クリスマス休暇）である。それ以外は週 2 回ほどしかシフトが回らず、漁業との兼業だという。忙しい時期は朝 6 時から夕方 6 時まで働くそうである。観光ボート料金は 1 時間 70 ペソで、内 50 ペソは組合（全額がランチエロに渡される）、10 ペソが保護区管理事務所、10 ペソが SEDENCO の外郭団体 CULTUR に分配される。ランチエロはその 50 ペソからガソリン代支払いやボート購入時に受けた融資の返済をする。

Felipe Chi Santana 氏によれば、Pronatura の研修や管理事務所の指導により、多くのランチエロは、日々の生活基盤である観光資源はリザーブの保全にあるということを理解している。自然に悪影響を与える行動は避け、合法的な方法でサービスを提供しなくてはいけないことも納得している。しかし、ランチエロのすべてが自然保全を理解・尊重しているわけではなく、さらなる研修が必要であると感じている。また、連合内規も新たにつくって、組合員の意識と行動を改革しようとしている（鳥の近くを通るときスピードを出さない、フラミングをわざと飛ばさない、潮の低いときは定められたルートを通る等）。違反者への罰則としてはシフトを減らす、観光サービス・ライセンス更新時にライセンスを取得できないようにするとかが挙げられた。

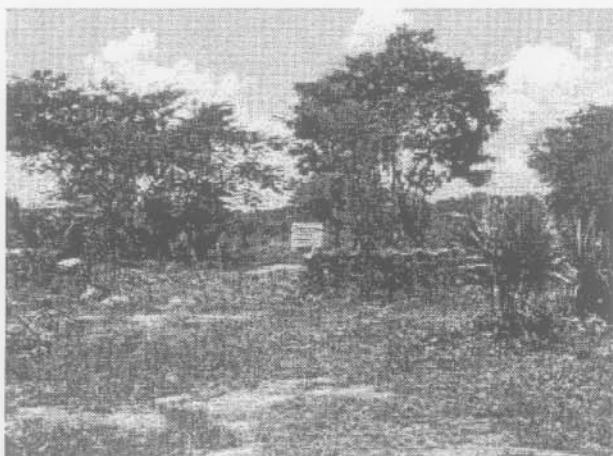
また、連合の方針としてランチエロの数はこれ以上増やさないと決めているそうである。現在のボート数で飽和状態だからである。また、現在では、観光ボート業に経済

魅力的があるので希望者も増えたが、以前は、コミュニティの多くの住民は、蚊にくわれながら観光客を案内するランチエロを笑っていた。彼らランチエロには、そういう状況下、パイオニアとして観光ボート市場を開拓してきたという自負があり、観光ブームへの便乗者に自分たちの市場を開けたくないという意識もあるそうである。観光業への参入に興味のある住民のオプションとしては、ビーチでの諸活動、スポーツフィッシング、カヤック、説明的ルート、塩田の見学、バードウォッチング等への従事などが挙げられた。

#### D. その他の経済活動

保護区内での農牧林業はみるものもなく、環境への影響もないようである。メキシコにはエヒードと呼ばれる共同農地が存在し、セレストン住民も約 310 世帯（全世帯の 4 分の 1 強）でエヒードを分割所有している。しかし、保護区の境界を決めるときにエヒードを除外したため、保護区内にエヒードは存在しない。エヒード組合組合長 Aquilio Chac Auila 氏（漁業組合連合会長と同一人物）によれば、エヒード所有者（エヒダリオ）の中には畑をつくったり牛を飼っている者もいるが、ほとんどの所有者の場合、主生業は漁業で漁港に近い市街に住んでおり、エヒードを農地として利用していないという。しかし、近年漁獲高が減少し、漁業の先行きに不安感をもっているため、土地の有効利用に関心はある。たとえば、SEMARNAT の促進している UMA もそのうちの一つである。しかし、UMA による生産物の市場の存在、融資プログラムへのアクセス等が問題だと感じているそうである。

写真9：セレストン郡内のエヒード



#### （3） コミュニティの問題

セレストン郡では 2001 年 5 月に郡政選挙が行われ、新郡長 Jose Luis Chan 氏（任期 3 年）が 7 月 1 日に就任した。同氏によれば、コミュニティの問題は以下のとおり（順不同）。

- ①自然資源が豊富に存在するが、有効利用されていない。
- ②移民が多く、居住区に指定されていない地域（湿地帯）への占拠が増えている。これらの地域は土が浅く住宅建設には不適切で、トイレも掘れないためにし尿処理が問題になっている。人口増とし尿による汚染が保護区の生態系に影響を与えないように、保護区から約 14 キロ離れた地点のエヒードを買い上げ、新しい町を作ることも考慮中である。
- ③ゴミ収集が機能しておらず、家庭ゴミは不法投棄され、あるいは住宅用土地を確保するため湿原の埋め立てに利用されている。過去何年間にも渡って蓄積された問題だが、郡には問題解決に必要な予算がなく手段が講じられない。また、住民の教育レベルも低く、衛生に関する意識が低いことも障害となっている。
- ④その他：アルコール中毒者が増えている。また、漁業・製塩業における雇用創出が必要。

Jose Luis Chan 氏とのインタビューはメリダの保護区管理事務所で行ったが、同氏はセレストン保護区の協力について前向きである。就任以来、郡の責任者として保護区管理事務所と話し合ってきており、郡は保護区のため、保護区は郡のために行動し、お互いセレストンを世界に誇れる町にするため全面的に協力しようということになっているという。この目的に貢献してくれるものは、JICA 等外部からの支援を含め、誰でも歓迎することである。

一方、1991 年からセレストンで活動している NGO の Pronatura（自然環境団員報告参照）が、セレストン郡コミュニティ保健委員会（Comite de Salud）メンバー対象に 2001 年に行ったワークショップでは、コミュニティの主要な問題として、①教育の欠如、②ゴミ問題、③ドラッグ中毒、④アルコール中毒、⑤失業、⑥蚊と関連の病気、⑦雨季に洪水になる通り、⑧漁業資源の枯渇、及び⑨当局者の不在（たとえば、保護区管理事務所が設置されたのは最近であり、当局者能力に欠けていると受け取られている）が挙げられた<sup>8</sup>。

また、今回、インタビュー対象者の中で、1970 年代の農業危機以前からセレストンに居住したいた住民たちは、自分たちと農業危機以降の移民を区別して話す傾向があり、コミュ

<sup>8</sup> ただし、これら 9 項目がコミュニティ住民のもつ平均的な問題意識かどうかという点については疑問も残る。ワークショップ参加者は保健委員会のメンバーであり、保健衛生上の問題が多く挙げられている可能性のあること、またメンバーはそれまで Pronatura と 3 年近く活動しており、環境保全意識の高い住民であることを考慮にいれる必要があるからである。

ニティ内でこの2つのグループ間に微妙な対立感情が存在する可能性がある。移民は、基本的に内陸部出身の農民であり、元々漁業を主生業としてきた住民とは社会文化が異なることがあるのだという。また、たとえば、移民のなかには、コミュニティに馴染まず、集会等にも参加しない人々がいるという。

図表11：農業危機以前からのセレストン居住者と以後の移民の特徴

タイプ	特徴
1970年代半ばの農業危機以前からの居住者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の約43%（1990年国勢調査）</li> <li>・代々の漁民（リベレニヤで漁業を行うものが多い。ただし、リベレニヤ漁業のオフ・シーズンにはリア漁業や地引網漁に従事する住民もいる）、塩田の慣習的利用者（製塩業者）、エヒード所有者</li> <li>・市街区域に居住している</li> </ul>
農業危機以降の移民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の約57%（1990年国勢調査）</li> <li>・内陸部出身の元農民が多い</li> <li>・リア漁業従事者、地引網労働者が多い</li> <li>・市街区域外に居住している者もいる</li> </ul>

さらに、コミュニティ内の問題ではないが、漁業の項で述べたように、漁業水域をめぐって、セレストンとイスラ・アレナのコミュニティに対立感情が存在する。本調査団がイスラ・アレナに視察に出かけた際には、前年にカンペチエ側で拿捕された後に焼かれたセレストンの漁船の残骸が見せしめに放置されているのを見かけた。調査時期はタコの解禁時期と重なっていたが、漁業組合連合会長によれば、セレストン近海では今年はタコがあまり捕れず（赤潮の影響だという話もある）、カンペチエ州側で漁のできないセレストン漁民の不満が高まっているとのことであった。また、保護区管理事務所の話では、イスラ・アレナにカンペチエ側の舗装道路が開通するまでは、イスラ・アレナでは漁船用ガソリンなどの必需品の購入をセレストンに頼っていたが、セレストン住民が足元をみて高く売りつける等の行為があり、セレストンへの不信感があるという。イスラ・アレナで重病人がでてセレストンのクリニックに運ぼうとしたとき、一部のセレストン住民がその通行を妨害しようとしたこともあったという（結局、別の住民たちの説得で病人は無事に治療を受けることができた）。